

健康長寿 食から始める健康あきた <後半> 食通じた健康づくりに取り組むボランティア

三種、推進協設立へ動く 活動に明るい兆しも



食生活改善推進員が減少する中、明るい兆しも出てきた。2008年の男鹿市以降、新たに推進協を立ち上げる市町村はなかったが、24年に能代市で発足。現在、三種町も来年度の設立に向けて準備を始めているほか、会員確保で成果を上げている推進協もある。

三種町では先月19日、推進協立ち上げを念頭に、推進員養成講座を開催。5人の町民が参加した。県健康づくり推進課の管理栄養士や推進員が講演し、県内の健康状況や推進協の活動内容について理解を深めた。町健康推進課によると、25年3月に「みたね健康21計画」を策定。減塩を実践する人の割合を75%、野菜摂取量の平均値を350gなどとする行動目標を掲げた。達成のためには町民の協力が不可欠と判断。これまでは推進協設立の準備を担う職員がいなかったが、24年度から同課に管理栄養士が配置されたこともあり検討が始まったという。

担当者は「全5回の養成講座全てに出席できる人を集めるのが難しいが、声かけをするなど地道に増やしたい。秋には今回の5人が講習を終える。意向を踏まえつつ来年度の発足を目指したい」としている。一足早く設立した能代市も市健康づくり課に22年度、管理栄養士が増員され、設立へ一気に動き出したという。当初は推進員11人だったが、現在は21人に増えた。今秋にも養成講座を予定している。担当者は「まだ発足から日が浅く推進員の減少には至っていないが、高齢化による問題は避けられないので対策を考えたい」。入会者を増やした推進協もある。横手市推進協雄物川支部では、例年1、2人だった入会者が25年度は7人、26年度は11人と急増。行政主導で市推進協が年1回開く養成講座とは別に、支部が主体的に講座を企画、開催。興味のある住民を集めたという。市健康推進課の担当者は「知り合いに声をかけるなどして口コミレベルで講座開催が広まった。推進員たちが積極的に動いた結果」と話している。<随時掲載> (令和8年7月10日(金)秋田魁新聞より一部抜粋)